



# 岩五給食だより 号外



令和6年10月15日  
江戸川区立小岩第五中学校

**こうどう 行動しよう!** ~「みんなの給食～給食からSDGsを考える～」の実施～

「SDGs」とは、サステナブル・ディベロップメント・ゴールズの略称です。“持続可能な開発目標”を意味し、“ただでなく、未来まで、すべての人が平和で豊かに暮らし続けるために、世界を良くする目標”ともいえます。2030年までに「誰一人取り残さない社会」を実現するための世界共通の目標です。今、地球上では、「経済」「社会」「環境」それぞれに関連した問題が起きています。この問題を解決する術がSDGsであり、一人ひとりが「自分ごと」として捉え、身近なことから少しずつ取り組むことが大切です。

江戸川区では、「SDGsの理念＝江戸川区が自指す共生社会の考え方」と捉え、「子どもから熟年者、障害のある方や外国籍の方など、さまざまな皆さんが、安心して自分らしく暮らせるまち」を実現させるためにもSDGsを推進しています。

では、個人で何ができるのか……。じつは、普段の何気ない生活の中にもSDGsに繋がる行動があります。たとえば、そのうちのひとつが「食」です。そこで、生徒の皆さん、保護者の皆さん、地域の皆さんが、学校給食とかかわる取組からSDGsを考える機会となるよう、今年も、区内全ての小中学校で「みんなの給食～給食からSDGsを考える～」を実施します。

小岩五中では、明日・10月16日(水)に「みんなの給食」を実施します。ぜひ、ご家庭や地域でも話題にしてみてください。また、当日は学校ホームページにも献立とSDGsとの関わりの詳細を掲載します。そちらもあわせてご覧ください。

## 『SDGsえどがわ\*学校給食\*10の行動』

- 01 食材を無駄なく使って食べよう
- 02 栄養バランスを考えて食べよう
- 03 友達と協力して給食の準備・片付けをしよう
- 04 水を大切にしてお水を洗おう
- 05 食の安全に興味をもとう
- 06 食文化の違いや食物アレルギーを知ろう
- 07 給食行事をとおして絆を深めよう
- 08 牛乳パックをリサイクルしよう
- 09 プラスチックごみを減らそう
- 10 江戸川区産の小松菜を食べよう



裏面で、当日の献立とSDGsとの関わりについて紹介します!

⇒ 裏面へ

# みんなの給食

～給食からSDGsを考える～

令和3年5月、江戸川区は内閣府よりSDGs推進都市に認定されました。3年目の今年度は「継続する」が目標です。1人1人ができる小さなことを積み重ね、皆でよりよい未来をつくりましょう！



10月16日(水)の献立

大豆ミートのたんたん丼

牛乳

もやし中華和え 五目生姜スープ

りんご



## SDGs目標2 飢餓をゼロに

- すべての人に安全で栄養のある食料を確保する。
- あらゆる形の栄養不足を解消する。
- 持続可能な農業を進める。

関連する目標: 15

当日、実際の給食の写真をのせて校内の掲示板や学校ホームページに掲載します。お楽しみに！

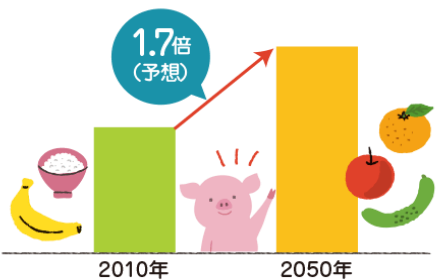
【SDGs目標2 飢餓をゼロに】を意識して食べる給食です。「大豆ミート」という食品を使って、たんたん丼を作りました。

大豆ミートは、大豆を原料として作られる肉のような食品です。「畑の肉」と呼ばれるほどたんぱく質が豊富な大豆を使って作るため、肉に代わるたんぱく源として期待されています。調理後の風味は肉とほとんど変わりません。

畜産に頼る生活よりも、健康や環境に関する課題の解決につながり、SDGsの目標に貢献することができる食材として注目を集めています。

## ★環境負荷を考えた農作物とSDGs

2050年の世界が必要とする食料の見直し



飢餓とは、十分な食べ物を食べられずに栄養不足になり、健康を保つことができなくなった状態のことをいいます。今、世界では、約7.4億人の人が飢餓に苦しんでいます。気候変動による災害や紛争、農業技術の低さなどが飢餓を生み出す原因となっています。

そして今後、世界の人口はますます増加し、2050年には今より1.7倍もの食料が必要となるといわれています。それだけの食料をどのように生産していくのか、課題となっています。

※「2050年における世界の食料需給見通し(農林水産省)」より

## ★肉に代わるたんぱく源・大豆ミート

環境に配慮しながら今ある食品の生産性を高めていくことはもちろん、新たな食品を生産する工夫も必要です。肉に代わる、たんぱく質が豊富な食材として、「大豆ミート」という食品が開発されました。

牛肉や鶏肉、豚肉などの生産には、大量のえさや穀物、それらの生産にかかわる水を必要とします。その一方で食料危機に瀕している人たちがいることを考えると、畜産物だけに頼るわけにはいきません。「大豆ミート」はその名の通り大豆から作られる食品で、畜産よりも持続可能で安定的な生産ができることから、食料危機の救世主として期待されています。

